

特集

分けるには訳がある

——資源ごみの分別——

ごみ置き場に残されている資源ごみを見たことはありますか。そのほとんどは、きちんと分別していないという理由で、回収されなかったものです——。

今月号の特集では、住民の皆さんと内子町リサイクルセンターを見学して、資源ごみの行方を追ってみます。そこから見える、分別の大切さ——。取材をしてくれた5人と一緒に考えてみましょう。

内子町
リサイクルセンター



施設2階

【供給コンベア】

②缶・ペットボトルを供給コンベアで流し、1階の圧縮機へ送る



【選別作業台】

①資源ごみは施設の2階で受け入れて、選別作業をする



施設1階

【古紙類ストックヤード】

④新聞紙・段ボール・雑誌ごとに、一時保存する場所



【金属圧縮機】

③選別された資源ごみは1階に落とされ、機械で成型される



リサイクルセンターの外観

●設備の概要

こんなところです「リサイクルセンター」



白色トレイ

専用の投入口から、1階にある減容機へ入れます。



缶

手作業で、供給コンベアに流す。分別できているか職員の目で確認



ペットボトル

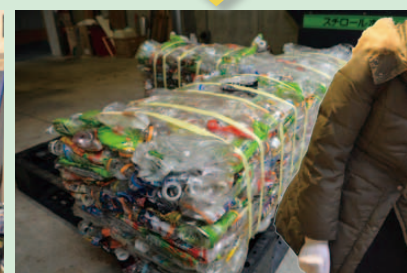
キャップが付いてないか確認しながら、ペットボトル用シュートに流す



白色トレイは、熱で溶かしてから、棒状に固める



圧縮された缶。ペットフードの缶は、フタが取れて機械の故障の原因に



圧縮機で圧縮したあと、運びやすいように梱包

●処理の仕方

コンパクトになるんだね



案内してくれた職員
池本 保彦さん

ここで処理した資源ごみは、中間処理業者に販売して施設の運営費の一部になります。「混ぜたらごみ、分けたら資源」です。ごみは処理するのにお金がいるだけですが、リサイクルすれば、資源も税金も節約することにつながります。

年間約760トンの資源ごみは、職員3人で処理しています。1日に約2トンを処理することになるので、分別ができてないと、作業が大変です。特に困るのは、供給コンベアに缶の中身がこぼれて、機械が故障すること。それを防ぐために、缶の中を洗ってから出すことをお願いしています。

分別が税金の節約に

資源 資源ごみは正しく分別して、処理することで再資源として利用できます。私たちが捨てた資源ごみがどのように処理されているかを見学しに、納堂由美子さん・美生ちゃん・大空くん、入江初美さん・美和ちゃんの5人と内子町リサイクルセンターを訪れました。

資源ごみの行き先

ペットボトル・白色トレイ・古紙類の資源ごみは、ここに集められてから選別・圧縮などの処理をして、再資源化されています。

ほとんどが手作業

見学では資源ごみが運ばれてからの作業の流れを学びました。リサイクルセンターは2階建てで、2階に運ばれた資源ごみを1階に落とすなど効率的に処理しています。皆さんを驚かしたのは、ほとんどの作業が職員の手と目でされていたことです。正しく分別されていないと、再資

源化できない上、機械の故障の原因になるため、一つ一つの袋を丁寧に確認しながら選別します。

年間760トンの資源ごみ

リサイクルセンターに運ばれる資源ごみの量は、年々増加。26年は760トンを越えました。責任者の大野栄司さんは「ごみが増えるのはよくないが、リサイクルの意識が高まって、資源ごみが増えていくとも言える。きちんと分ければ資源になることを、施設の見学で学んでもらえたのでうれしい」と話していました。

資源ごみの行き先を見学してみよう！

内子町内に住む納堂さんと入江さんの家族にお願いして、「内子町リサイクルセンター」を、一緒に見学してもらいました。施設には年間760トンの資源ごみが集まるそうです。私たちの出した資源ごみが、どのように処理されているのか、納堂さんたちと一緒にのぞいてみましょう。

施設を見学してくれた皆さん

(左側) 入江初美さん、美和ちゃん

初美さんは内子町ごみ減量検討委員会の委員をしています。普段から、フリーマーケットを活用して、いらなくなったものを繰り返し使うことを心掛けています。

(右側) 納堂由美子さん、大空くん、美生ちゃん

昨年の4月に東京から内子町に移り住んでいる由美子さん。国際NGO(非政府組織)で、開発途上国や紛争地などの子どもたちを支援する活動をしています。



なるほど〜

資源ごみの出し方のポイント ——できてる人も、もう一度確認を——

▶ ペットボトル



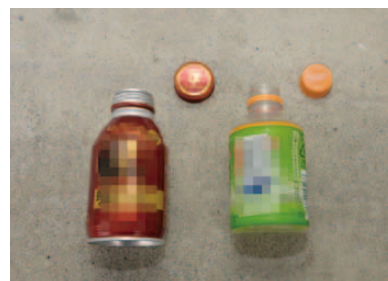
ペットボトルとして出せるのは、ジュース・酒・醤油など、容器の後ろにペットボトルマークがあるものです。

▶ スプレー缶



スプレー缶は、圧縮するとき、爆発する恐れがあります。風通し良いところで穴を開けて、金属類へ出してください。

▶ 空き缶・ペットボトル



缶・ペットボトルのキャップは外して出してください。キャップが機械に詰まって故障の原因になります。

▶ 古紙



ティッシュの箱やトイレトーパーなどは、古紙として、雑誌などと一緒に出せます。燃やさず、資源にしましょう。

▶ 白色トレイ



色付きのトレイは、資源ごみの白色トレイと一緒に出すことができません。スーパーなどの回収ボックスへ出してください。

▶ 空き瓶



空き瓶は、人やペットが口にするものが入っていた容器だけです。化粧品の瓶などは、燃えないごみへ出してください。

ざつていたら回収しません。正しく分別されていないと、処理施設の作業時間が増えたり、機械が壊れたりして、運営費用がかさむという現実的な問題も、確かにあります。でも、もっと大切なのは「ただのごみにしない。ごみを出さない」と、考えてもらうことです。きちんと分別すれば資源になる——。そう考える人が増えることで、ごみだけでなく、環境に対する意識も高まると思います。

最後に、大空くんの質問に対しては、「面倒くさいからと言ってやらないと、その面倒くさいはきつとどこかたまって、それをいつか誰かが背負わないといけない。だから、面倒くさいけれど、一人一人が分別を心掛けてほしい」と答えました。



Q 回収されない資源ごみはどのくらいありますか。

A 毎回出される資源ごみの内、5%ほどが回収できないごみです。回収されたものでも、中がきちんと分別できてないため、年間約2トンがごみとして処分されます。

Q 人口は減っているのに、何でごみの量は増えるのですか。

A 暮らしの変化で、ごみの出やすい社会になっています。特に紙ごみが多くなっています。事業系の一般廃棄物が増えたことも一因。みんなでごみを出さない工夫が必要です。



回収されない資源ごみには訳がある——

残される訳を知ろう

リサイクルセンターの見学を終えた皆さん——

資源ごみの処理の仕方や、きちんと分別すれば資源になるということを学びました。

見学後の話し合いでは、ごみ置き場に残されている資源ごみの話題になりました。

リサイクルセンターに回収しないと、資源ごみは再資源化できません。

なぜ、ごみ置き場に回収されずに残るごみがあるのでしょうか。残される訳を考えます。

「どうしてこんなに分別は面倒くさいの」——リサイクルセンターの見学を終えた納堂大空くんの言葉です。子どもは素直で、核心に迫るいい質問をしますね。

確かに、飲み終えた空き缶やペットボトルなどの容器は、その人にとってはただのごみです。分別するのは面倒くさいし、でも「ごみだから」と捨ててばかりだと、ごみは増える一方——。ごみを燃やすと二酸化炭素が増えて環境に悪く、処理施設のコストも掛かります。資源は減り、未来の子どもたちが住みにくい環境になるかもしれません。今、一人一人がき



環境政策室
中嶋 優治 室長

ごみではなく、未来への資源——
一人一人の心掛けで、環境が変わる

ちゃんと分別して、資源ごみを資源に変えることが、きっと未来のためになります。

内子町のごみ分別は14種類あり、そのうち資源ごみは11種類に分けています。愛媛県内では西予市が23種類、鬼北町が19種類と、内子町が特別多い訳ではありません。それでも分別が大変なのは確かです。区や自治会の積極的な協力のおかげで、少しずつ浸透していることは、本当にありがたいことです。

26年10月からは、ごみ回収のルールを厳しくしました。ごみ袋の中に少し違うごみが混ざっていても回収していましたが、今は違うごみが混

見学会のQ&A
見学をした皆さんからの質問を一部ご紹介します。



見学会後、事務室で資源ごみの分別について話す皆さん

Q 分別の仕方が分からないときは、どうすればいいですか。

A 気軽に環境政策室へお問い合わせください。区や自治会などに出向いて、ごみ分別説明会を開くこともできます。間違いやすい部分を分かりやすく説明しています。



見学の感想②

納堂由美子さん

資源ごみの処理を知る いい経験になった

東京ではリサイクルセンターが身近ではなかったの、自分たちの出したごみがどう処理されているかを知るいい経験になりました。

内子町は地域内の人と人との関わりが強く、一人一人が地域を良くしようというメッセージが伝わってきます。私の地区の区長は福岡孝男さんですが、ごみ分別に関して熱心に取り組んでいて、みんなで助け合わなければいけないと思いました。



見学の感想①

入江初美さん

職員の大変さを感じ 分別の意識が高まった

きちんと分別をしないとリサイクルセンターの職員が大変だということが分かりました。

普段から、缶やペットボトルのキャップなどを外して出したり、きちんと中身を洗って出したりすることに、気を付けていますが、リサイクルセンターを見学することで、ますます分別に対する意識が高まりました。

ごみを捨てるときに少しでも気を付けることを、地域全体で取り組めたらと思います。



(上) ごみ置き場に設置する案内を説明する福岡さん(下) 回収されなかった資源ごみ(左) 柿原自治会の分別作業



分ける訳を考える

私たちが捨てた資源ごみは誰かの手によって処理されている——
資源ごみの行方を考えたとき、ごみ問題に対する意識が少し変わるかもしれません。
ごみの分別に関して、熱心に取り組む2人に話を聞きました。

分別でごみ問題を考える
「回収されないごみを、区や自治会で処理するのは正直しんどい」——取材した福岡さんと石丸さんは口をそろえます。でも地域の皆さんが関わることで、「ごみに対する意識の変化を感じている」とも語ります。単にごみを捨てるだけでは、自分たちが出すごみの行方を意識したり、責任を感じたりすることはありません。2人が感じた地域の人の意識の変化は、分別を通じてごみ問題と向き合った成果だと思っています。
ごみ問題を解決するためには、実はリサイクルだけでは不十分。レジ袋を断ったり、物を大切にしたり、暮らし方や社会の在り方を見直して、増え続けるごみ自体を減らすことが必要です。
ごみの処理は、町の環境や財政の大きな負担になります。分別は大変ですが、その負担を少し軽くし、ごみの行方や環境問題を考えるきっかけにもなります。小さな一歩ですが、みんなで一緒に踏み出せば、未来を変えられる大きな一歩になるのです——。



内子19第1区区長
福岡 孝男さん

Interview

ごみの分別に取り組む地域の人たちに聞きました②

分別を呼び掛ける回覧で地域とコミュニケーション

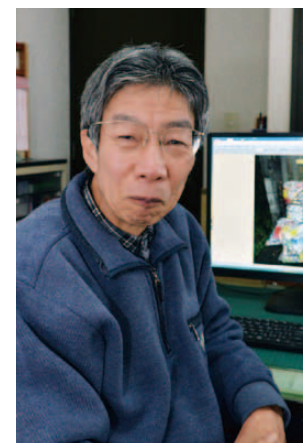
27年4月から区長をしています。

資源ごみ置き場に残されたごみを持ち帰っている前区長の姿を見て、大変だなと思っていました。区長になってから、このままではいけないと思い、残されているごみの現状とごみ分別のルールを地域の皆さんに知ってもらうために、回覧を出すことにしました。

回覧には、いつ、どんなごみが残されていたか、回収できない理由、処理方法などを書いています。最初は、残されているごみが多く、袋を開けて中まで確認をしないとイケないので大変でした。しかし今では、分別のことで

電話をしてくれたり、家に訪ねて来てくれたりする人がいて、やっていることは無駄ではないと思いました。回覧の効果もあり、残っているごみがだんだんと少なくなっています。

1番大切にしていることはコミュニケーションです。人と人がつながることで、物事の解決策が見えてきます。ごみの問題も一緒だと思います。みんなが助け合わないと、いい地域にはなりません。「誰かが片付けるから、いいだろう」ではなく、誰かの負担にならないように一人一人が気を付ける、そんな思いやりが大切だと思います。



柿原自治会生活環境部長
石丸 和美さん

Interview

ごみの分別に取り組む地域の人たちに聞きました①

未回収ごみアンダー60を目指して地域で協力

26年の4月から生活環境部長をしています。柿原自治会では、回収されずに残ったごみを地域全体の問題と考え、みんなが交替で分別をしています。以前は生活環境部の7人だけで分別していましたが、地域みんなで負担することで、ごみに対する意識が変わってきたと思います。

分別の問題を解決するには「分別ができていない」と、ただ伝えるだけでは意味がありません。柿原自治会では残っているごみを記録して分析し、正しいごみの出し方をアドバイスする勉強会をしています。勉強会をして、ご

みの分別の状況は改善していますが、回収されずに残るごみはまだあります。それを見ると、少し寂しくなるのが正直な気持ちです。

柿原自治会生活環境部の目標は、1年間の未回収ごみを60袋以下にすることです。去年は102袋残っていて、達成できませんでした。私は「ごみは出したら終わりじゃなく、始まりです」ということを呼び掛けています。自分たちが捨てたごみが、多くの人によって処理されていることを理解してもらい、未回収ごみの削減に取り組みます。